ハイキング

雲州月山（183.8m）～出張登山を極める～

戦略なき尼子一族の衰亡と烈忠の臣

【報　告　者】田中耕司
【日　　時】2005 年 11 月 13 日　　【天　候】晴れ
【参　加　者】田中（単独）

≪コースタイム≫

広瀬絣センター月山道の駅(15:00) - 山中御殿(15:20) - 三の丸跡(15:45) -
山頂（16：00） - 絣センター(16:30)

≪　報　　告　≫

せっかく出張するなら、山登りも楽しまなくてはとは考えたが、伯耆大山にのぼるほどの時間がない。それで、米子の隣町の安来（どぜうすくいで有名）の内陸にある月山に登ることにした。

月山は、ここにあった月山冨田城（がっさんとだじょう）が有名。城主は尼子一族で、一時期は山陰山陽 11 カ国を支配していたが、毛利元就の智謀に敗れ、城を失った。その後も山中鹿之介ら家臣団が蜂起し、一時は月山冨田城を奪還したが、再度落城し、今度は織田信長と密約を結び再度蜂起し、播州上月城に篭るが、織田信長の裏切りで見殺しにされた悲劇の武将として有名である。詳しく知りたい人は、http://www2.ocn.ne.jp/~inokou/densetu.html　を参照してください。

さて、ここまで下調べができたら、観光と登山を組み合わせ、思い切り楽しもう。

JR 安来駅からコミュニティバスで 15 分、広瀬市民病院下車、徒歩 10 分で、登山口の絣センターに着いた。入り口はの駐車場の奥。わかり易い案内図が出ている。絣センターで帰りのバスを調べたら、あるのかないのかもわからない。なければ、タクシーを呼んでくれるとのこと。

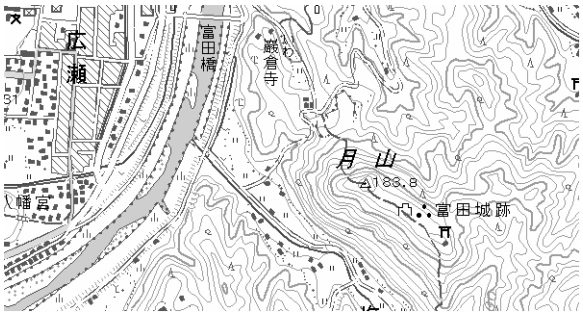
杉林の狭い谷筋をジグザグに上り尾根上に出ると、突然開け、小さな公園となっていた。ちょっと人工物がうるさいが、だれもおらず静か。紅葉が美しい。公園の奥を突っ切ると再び山道となり、花の壇という以前侍の宿舎があった平坦地に出た。広瀬の町がよく見える。毛利勢が陣を張ったであろう富田川の河原が遠く安来市街まで見えた。

山道を進み山中御殿。いわゆる城門広場に相当するところで、かつては、ここに 3 方向からきた登山道が出会い、大手門が山頂へのゆくてを阻んでいたのであろう。石垣上から包囲殲滅ができるように大きな石垣が複雑にめぐらされている。今はなき大手門を通り、城内の広場に入る。小学校の校庭程度の広さで、ここも、周囲を高さ 2

mほどの石垣で囲み、防御を固めている。

ここから、三の丸へは一段一段がおどろくほど高い石段を進んで、林の中をジグザグに急登する。昔の武士の身長は 150cm ほどだから、これは、手をつかなければ、登れない高さだ。攻めあがる武者は、片手が使えず、敵が上で構えておれば、簡単に討ち取られるだろう。三の丸は、2-300 坪の広さで、ここも空掘を掘り、周囲から攻め込みにくくしている。そして、石段をくだり、一旦空掘りにはいり、再び石段をのぼり二の丸に進んだ。ここは、狭く、背後に本丸のあった山頂が見える。そこから、すこし傾斜が緩くなった尾根道をすすみ、山頂に着いた。山頂からの眺めもよく、正面のやまやまや、城下の町が見下ろせた。、

さて、このような古臭い歴史語り、ピナクル会員には、退屈であろう。その山にいるときは楽しめるのだが、いまこう書いてみるとちょっと恥ずかしい気がする。そろそろ、アダルトに入る資格が備わってきたのかな。

最後に、誰もいないことをいいことに、記念に石垣クライミングをしました。(せっかく道を教えてくれた安来市の教育委員会の人、ごめんなさい)

≪ルート図≫